

令和3年度 学校教育方針 (学級数 32 学級、児童数 848 人)

学校教育目標 『心身豊かに 学び合う 子どもの育成』

1 **めざす学校像** 今日の学び合いを喜び、明日の学びが待たれる学校

(1) 子どもたちが学ぶ喜びに満ち、楽しく通える学校

個々の児童の個性や能力に応じた学びを充実させる

人間尊重の精神に基づき、誰もが安心して登校できるように努める

(2) 児童・保護者・地域に信頼される学校

児童に知識技能や思考力・判断力・表現力をつけ、次代を担う子どもの豊かな心と実践的な態度を育てる

学校運営協議会や地域との連携を密に図り、信頼される学校づくりを進める

(3) 誰もが誇りを持てる学校

本校で学ぶことを喜び、愛校心と誇りを持ってもらえる学校づくりを進める

学校は子どもが考え・判断し・表現する「学びの場」です。子どもに、学んだり・新しいことを知ったりする喜びを感じさせ、学びの続きを楽しみに待てる授業や活動を行い、心の不安なく誰もが楽しく通える学校をめざします。

いろいろなことが多様化・複雑化する今の時代、子どもの教育は学校だけで、また家庭だけで行えるものではありません。子どもの将来の幸せのために、学校・家庭・地域が協力してこそ、実現できるものと考えます。三者が一緒に子どもを育てていくためにも、「信頼される学校」をめざします。笹原小学校に通ってよかった、卒業してよかった、通わせてよかった、そして働いてよかったと誰もが愛校心や誇りを持てる学校をめざします

2 **めざす子ども像** つよく ゆたかに 伸びゆく子

(1) 意欲的に学び、努力し続ける子

話をしっかりと聴き、自らの考えを述べ、判断し行動する

自主性、自尊感情（自己肯定感）を高める

(2) 豊かな心を持つ子

思いやりの心を持ち、お互いの違いを認め合う

安全に心がけ、命を大切にする

(3) 体を鍛える子

健康や安全に気をつけ、自分の生活を振り返る

望ましい食習慣を実践する

これからの予想困難な多様性の時代を生きぬいていく子どもたちには、決まったことを覚える学力だけではなく、新しいことに遭遇した時に、自分で考え判断し、生活に活かせる学力が必要です。

命の大切さを知らせるとともに、お互いが認め合い、相手を思いやる心や、善悪の判断などの規範意識や公共心を持たせることが大切です。

またコロナ禍の中でも、工夫した体育の時間等を活用し、屋外で体を動かす機会を確保し、日常的な運動習慣を忘れることなく身につけさせ、体力づくりを行う必要があります。学校給食をしっかりと食べ、お菓子などに頼らないバランスの良い食習慣をつけることが大切です。

3 **めざす教師像** 子どもの心を動かす教師

- (1) 思考力・判断力・表現力を育て、学習意欲を引き出す教師
- (2) 互いに研鑽し、授業改善に努め続ける教師
- (3) 子どもの実態を把握し、危機管理意識を持って迅速に協力して対応する教師

子どもに何を学んでいるのか、どのように学ぶのかを意識させ、自分で考える時間やコロナ対策を行いながらの短時間でも質の高い意見交換をしっかりと確保し、主体的な学習を行います。教師自身がすすんで授業公開や研修を行い、Wi-Fi環境の中タブレット等ICTを積極的に活用するなど、わかりやすく感動のある授業をめざします。

子どもの現状を細やかに観察し、適切な対処を心がけます。学校として「教育のユニバーサルデザイン」を推進し、学びにふさわしい学習環境を整え、学力向上をめざします。また、子ども一人ひとりの夢の実現に向けて、学校運営協議会を核として学校・家庭・地域が協力して取り組みます。教師として「危機管理意識」を高く持ち、複数で迅速な対応が出来るように努めます。

4 本校の特色

- (1) 子ども一人ひとりをしっかり見つめ、個に応じた指導の徹底を図る
- (2) 学校運営協議会（学校・家庭・地域）との連携を図り、教育環境の構築を進める
- (3) 保幼小中連携による生徒指導・学習活動・教職員の資質向上の強化を図る
- (4) 教育のユニバーサルデザイン化（授業・教室環境・人的環境）を進めた学校経営を進める
- (5) 特別支援教育の推進を図る

5 教職員の勤務時間の適正化に向けた取組

教職員の意識改革と組織的な取組を進め、勤務時間の適正化に努める

社会では「働き方改革」が言われ、教職員の負担軽減についても問題になっている。子どもたちに良い教育を提供するには、教職員自身がゆとりを持ち元気であることが必要である。先生たちの元気があつてこそ、学校で子どもたちをしっかりと受けとめ、あたたかく適切な指導が行えると考えている。

そこで教職員の負担を軽減するため、在宅での仕事も視野に入れながら、学校の留守番電話の使用(平日 18:30～翌朝、土日祝終日)を継続します。また職場の環境整備を進めるとともに、合理化を図るなどして、週1回の「定時退勤日」(6時半施錠)と「ノー会議デー」の徹底を継続して進めます。